

常識のタガ

まなびで「きびる」プロジェクト作成教材

人とのちがいでなやんだことはありませんか？

人とのちがいで自分はダメなんだと感じたことはありませんか？

これはぼくが子どものときのことです。

小学2年生のとき、親の仕事の都合で、住む場所が海外から日本に変わりました。

図工の授業のとき、先生がみんなに質問してきました。

「みんなは虹を見たことがあると思うけど、虹は何色でしょうか？」

ぼくはだれよりも先に知っていることを答えました。

「先生！5色ですよ！」

どっと笑いが起こりました。ぼくはどうして笑われたのか、どうしてみんながぼくを笑うのかがよく分からずにいりました。その後、ある友達がぼくに言いました。

「虹は7色だよ。赤・橙・黄・緑・青・藍・紫。書いてあったし、こんな常識じゃん。5色って変だよ。」

常識……。ぼくの常識は5色なのに、それは常識ではないのかな。みんなと違うということとは笑われることなのかな。悩みながら家にもどり、タブレットで調べてみると、ぼくが住んでいた国ではやっぱり5色で、他の国では4色や6色、それに2色というところもある。7色が常識って言われたけど、国によって常識は違うじゃないか。なんだか安心といかりが入り交じった不思議な気持ちになりました。

6年生の春、また住む場所が変わりました。同じ県内だけれどおくの町に変わりました。

ある体育の授業で持久走があり、走り終えた後、自然と口から出た言葉、

「は〜。えらかった〜。」

に対して友達から、

「えっ？えらいって何？すごい人ってこと？君がすごいってこと？」

と言われました。だから持久走が苦しくて大変だったということを伝えるよ、

「それってキツいっていうんだよ。常識だよ。」



と、強めに言われました。

常識……。じつせんじに小学2年生のときに感じた気持ちがよく分らない気持ちになり、それが表情や態度に出てしまっていたのでしよう。ぼくを見た担任の先生に声をかけられ、事情を聞かれました。ぼくは小学2年生のときのこともふくめ、心の内を話しました。すると先生が、

「あなたは常識ってという言葉で悩んでいるんだね。先生にはなんだか常識ってという言葉にギョッと縛ゆわられているように見えるな。できるなら心の中にある常識のタガを外してみようかな？」

この言葉を聞いたとき、最初、

「タガって何？」

と思いました。疑問ぎもんに思ったら調べたいと思ってしまっタイプなので色々調べてみました。すると、次のようなことが分かりました。

桶かじや樽もろなどの外側にはめ締しめてかためるために使われる金属製のもの。

また、何かをギョッと縛ゆわるもの。



「ん！何かをギョッと縛ゆわるもの？それを外す？常識のタガを外す？」

ぼくは先生がくれたアドバイスを振り返りながら、自分のことを見つめてみました。

ぼくはどんな常識のタガに縛ゆわられているんだろう。常識のタガを外すとどんな考え方になるのだろう？

小学2年生のときに経験した虹色にじいろのちがひ。そして、持久走の後に経験した言葉のちがひ。ぼくは知らず知らず自分に自分のことを常識がないのかなと思ってしまうだけけれど、実際はそうじゃないって思っているのかな。もしかしたら、他にも常識と言われていること、思っていることがあるのかな。そんなことを考えていると、なんだか新しい自分になった気持ちになり、うれしくなりました。



「常識のタガを外す。」

わて、どんな常識から考えていいのかな。